

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 筋肉・受容器・神経デバイスの超分散化で切り拓く Brainless Robotics
2. 研究代表者： 増田 容一（大阪大学 大学院工学研究科 助教）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、動物末梢に備わる計算なき運動知能を理解し実装するため、機械式の筋肉・受容器・神経デバイスをロボット全身に埋め込み、上位脳のわずかな調整により統御する新ロボット学の創成を目指している。フェーズ1では、動物の身体性と運動の発現・制御に関して、解剖学をベースとした知見を積み上げて挑戦しており、動物の持つ反射回路を模擬したアクチュエータを試作するなど、幾つかの有効な成果を得たことは評価できる。フェーズ2では、反射を備えた身体構造を模倣したロボットシステムの実証を具体的に目指している。オリジナリティある考えに基づいて、挑戦的な取り組みが計画されており、革新的な成果に期待する。

以上